

平成27年11月の大阪森林便り



木造ビル用新建材に商機 直交集成板

銘建工業 生産能力10倍 山本ビニター 専用プレス機

これまで建設するのが難しかった木造ビルを可能にする木製の新建材を実用化。量産やコスト削減の技術開発が進んでいます。国は2024年に国内の3～4階建ての建築物の6%に当たる年50万m³を生産する目標。

工期短く、人手不足の現場向き

重さは同じ体積のコンクリートの約5分の1。

2016年度には建築基準を定め、通常の建材と同じように使えるようにする予定です。

直交集成板（CLT）の特徴

- ①強度がコンクリートの4倍 ②木造で高い建物が出来る ③パネル式で工期を短縮
- ④国産材の有効利用を促進 ⑤まだ価格が高い

直交集成板（CLT）：木材を縦にカットした板を接着剤で圧着した木質の新建材。CLTはクロス・ラミネイテッド・チンバーの略。木目が直交するように互い違いに何層も重ねることで強度を高めました。引張強度はコンクリートの4倍あるが、軽量で輸送や施工がしやすい。普及による国産材の利用拡大も期待されている。1990年代に欧州で利用が始まり、英国やイタリアでは10階前後の木造ビルがあり、ウィーンでは24階建て高層ビルが計画されている。

（2015年10月5日 日本経済新聞記事から抜粋）



北米産丸太が反落 10月積み対日価格

北米産丸太の対日輸出成約価格が反落しました。10月積みは4か月ぶりに値下がりしました。山林火災が収束し、伐採量も回復しつつあります。中国は、景気減速感が強まっているため北米産丸太の輸入意欲が低下しています。

（2015年10月8日 日本経済新聞記事から抜粋）

集成管柱、6か月ぶり上昇

集成管柱が6か月ぶりに上昇。主要メーカーが前年の最も多い時期と比べて2～3割程度の減産を続けている影響。需要も回復し始めています。梁に使う集成平角は横ばいが続いています。

(2015年10月14日 日本経済新聞記事から抜粋)

国産丸太6.7%高 9月取引価格 伐採量少なく

国産丸太の取引価格が1段高となっています。9月の平均価格は前月と比べて6.7%上がりました。値上がりは3か月連続。降雨で伐採量が減ったうえ、住宅着工が上向き、需要が増えました。

(2015年10月17日 日本経済新聞記事から抜粋)

水都おおさか森林の市 秋晴れに恵まれ2万人来場

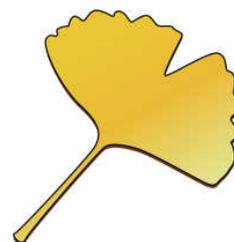
近畿中国森林管理局が中心となって結成する実行委員会主催の「山の日制定記念・水都おおさか森林の市」が秋晴れに恵まれた10月4日、毛馬桜ノ宮公園周辺で開催され、各地から2万人を超す大勢の家族連れが集まり、終日木に親しみました。来年から8月11日が「山の日」になります。

(2015年10月20日 東洋木材新聞記事から抜粋)

国産針葉樹合板 先高観広がる 在庫減と運搬車不足で

国産針葉樹合板の価格に先高観が広がっています。2か月ほど横ばいが続く中、合板メーカーが減産を続け在庫が減少。トラックが不足し配送が滞りがちになっていることも品薄感に拍車をかけています。9月の生産量は前年同月比0.3%減。

(2015年10月29日 日本経済新聞記事から抜粋)





TPP 価格はこうなる 木材

輸入合板、競争力増す 関税撤廃までセーフガード

環太平洋経済連携協定（TPP）発効後、型枠や住宅部材の合板の輸入量が増加する可能性があります。マレーシア産の主要品で発効時にまず関税が半減します。

2014年の国内の合板の内需は約630万m³で輸入は55%。輸入量が多いのはマレーシア産で、2014年に合板の全輸入量の4割となる1,462,583m³の輸入がありました。

マレーシア産合板にかかる関税は現在、木の種類で6～10%と幅があります。発効時にはまず半分になり、15年間横ばいで推移。16年後に撤廃します。

セーフガードが発動される輸入量は、1年目が年間1,044,000m³。年々徐々に増え15年目は1,336,000m³。

現在の価格水準で関税が半分になると、輸入品は60円程度安くなる見込み。一方で、TPPが発効してすぐには輸入品価格が大きく下がらないとの見方も。マレーシアで丸太の伐採が制限され、合板の生産量が減り、現地価格は高止まりしています。

輸入量が一定量を超えると、関税が発効前の水準に戻るセーフガード措置も設けられています。OSB（オリエンテッド・ストランド・ボード）の関税5～6%は発効後11年目で撤廃。カナダ産はセーフガードが設けられ、関税は16年目で撤廃されます。

（2015年10月29日 日本経済新聞記事から抜粋）





秋の山、安全に楽しむには

疲労で判断力低下、危険招く 水分不足・低体温症に注意

山で事故を起こさない4つのポイント

1. 体の準備（登る前に体調を整える）
 - ・寝不足、飲み過ぎ、食事抜きはケガ・事故のもと
 - ・普段から足の筋力をつける
 - ・歩く速さは平地の半分。歩幅は肩幅以下に
2. 計画立案
 - ・地形図を見て、どこから登り、どこに下りるか決める
 - ・等高線の間隔で傾斜を見極める（狭いほど急）
 - ・植生、岩、砂れきなど地表の様子をチェック
 - ・3日前から天気を把握
3. 絶対必要な3つの装備（水、食べ物のほかに）
 - ・雨具（防水、防風、防寒になる）。体温の変化は体力を奪う
 - ・地形図とコンパス（磁石）
 - ・軽量のヘッドランプ
4. 登山届
 - ・日本山岳ガイド協会の「C o m p a s s（コンパス）」システムはオンラインで登山計画がだせる
 - ・計画作成は万が一のシュミレーションにつながる

（2015年10月31日 日本経済新聞記事から抜粋）



今月の木の話

木材の比強度は鉄よりも高いのか

木材と鉄を単純に比較すると、鉄のほうが高いことは確かです。

しかし、比重（密度）もまた鉄の方が高いので、強度を比重で割った値（比強度）で比較してみると、木材の方が高くなります。つまり、「木材の方が鉄よりも軽い割には強い」と言えます。

しかし、木材の場合、繊維直交方向の強度が繊維方向の10分の1から20分の1にまで低下します。繊維直交方向では、木材の比強度は鉄鋼より一桁低い値です。

また、せん断強度（断ち切ることに耐える限界の強度）を比重で割った値の比せん断強度は、木材は鉄鋼の6分の1程度です。

木材はせん断や繊維直交方向の強度が低いので、強くて粘りのある接合部を作るのが困難です。（日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋）